

豊川稻荷

妙厳寺の境内に祀られた「豊川稻荷」の通称で、嘉吉元年（四四一年）に東海義易禪師により開創されました。織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、大岡忠相、渡辺篤山などの武人、文人の信仰を集め、江戸時代には商売繁昌、家内安全の神として全国に信仰が広まりました。日本三大稻荷の一つされ、年間数百万人の参拝客が訪れます。

住所：豊川市豊川町1番地



とよかわバラ

豊川市は全国屈指のバラの产地で、出荷量、作付面積ともに日本一となっています。また出荷の際には28のチェック項目の出荷基準を設け、厳正な検査を行うとともに、日持ち性の向上にも努めています。こうしたことから高い品質が評価され都市圏を中心に多く出荷されています。



とよかわバウムクーヘン

株式会社香月堂のバウムクーヘンは、豊川市白鳥町と穂ノ原の工場でお客様に満足していただきため商品の安全安心の確保や品質向上に努めることを企業理念として生産されており、販売額・販売数量ともに日本一の国内シェアとなっています。また市内にはアウトレット店舗を構える多くの訪問者に利用され、観光バスが頻繁に訪れる観光スポットにもなっています。



とよかわうずら卵

愛知県のうずら卵の生産は全国シェアの約半数を占め、天狗グループで使用する原卵の約60%が愛知県産となっています。天狗缶詰(株)では、豊川市の御津地域にある三河工場とグループ工場の2拠点で、うずら卵の水煮製品を製造し出荷しております。昨今は袋詰や成形器も増えていますが、長期保存可能なうずら缶は、強固なニーズに支えられています。



豊川の情報はココからゲット



豊川市小坂井町で一九五七年にカゴメトマトケチャップの生産を開始し、現在では家庭用カゴメトマトケチャップ製品の全てを豊川市の小坂井工場で生産しています。
国内の家庭用トマトケチャップシェアはS.P.R.（イントーニー）で60%となり、日本一となっています。



豊川市のある赤三河は、豊富な地下水資源に恵まれ、湧き出た水が三河湾に流れ込み、鮎がふ化するのに最適な環境を形成しました。その三河湾で獲った鮎を豊富な水源で育てる養殖業が始まり、現在では様々な生産技術を革新することで、日本一の養殖鮎の生産地となりました。豊川市では、鮎養殖の主要な生産者が安定生産に努めており、産地として全国魚市場からの評価も非常に高く、令和元年度の漁業統計で7年連続で養殖鮎生産量日本一となっています。



さらに詳しい情報は各ブランドのQRコードからゲット！



とよかわブランド認定委員会
豊川市観光協会



日本トレックス株式会社は物流を支える輸送機器メーカーとして一九六四年に操業。主力製品であるトレーラーは、ダンソントンNo.1をスローガンに多品種に展開し、二〇〇九年度から「シア日本」を誇る製品群です。近年は進行するドライバー不足解消のため、「ダブル連結トラック」や女性やシニアドライバーに優しい「スマートボディー」など、時代の変化に合わせた最先端の技術開発にチャレンジしています。

とよかわトレーラー

きてみて感じいいね！
とよかわ

取得しました。

豊川いなり寿司

日本三大稻荷のひとつ豊川稻荷の門前では、古くからいなり寿司が販売され、いなり寿司の発祥の地のひとつと伝えられています。江戸時代の文献によると、約二〇〇年の歴史を持つ食べ物です。平成30年1月、豊川市初の地域ブランドとして「地域団体商標」を取得しました。

日本車輌製造株式会社豊川製作所は、新幹線電車をはじめとする様々な鉄道車両を開発・生産、新幹線電車の製造では日本として、鉄道の安全輸送のため、高品質で多様な鉄道車両を供給しています。そして開発・設計・製造を通して、次世代に向けた技術改良に常に挑み続けています。

御油のマツ並木

とよかわ新幹線車両

御油のマツ並木は、慶長9年（一六〇四年）徳川幕府の道路政策として、植樹されました。御油宿から赤坂宿までの六〇〇mにわたって約三〇〇本の松の大木が並んでいます。東海道で現存する松並木の中でも代表的なもので、昭和19年に国の天然記念物に指定されています。

住所：豊川市御油町美世賀一八三番地（豊川市御油の松並木資料館）

